



(写真提供：読売新聞社)

森岡 孝二

上の5行は、卒業式で歌われる関大逍遙歌の2番である。ここに出てくる雁は「かりがね」と読むが、「マガン」である。森鷗外の『雁』の舞台となった明治13(1880)年当時の東京にはマガンがたくさん渡って来ていたという。とすれば、マガンはかつては大阪にも来ていたのだろうか。

今でも北海道美幌市の宮島沼や、宮城県の伊豆沼には、毎年、マガンが数万羽飛来する。しかし、近畿地方には琵琶湖の湖北町に少数が来るにすぎない。湖北町の近くの旧浅井町(長浜市)の西池に来る数百羽の雁はマガンではなくオオヒシクイである。一茶が「今日からは日本の雁(カリ)ぞ楽に寝よ」と詠んだのも雁の仲間ではもっとも大きいオオヒシクイらしい。かつて大阪に雁が渡っ

てきていたかどうかを調べるためには、この逍遙歌がいつだれによって作られたかを知る必要がある。だが、関大「100年史」を見ても、現在編纂中の「120年史」の関係者に訊いても、作詞者も作曲者も制作年もわからない。

逍遙歌は戦前の旧制高校や大学の寮歌や応援歌であった。三高の「紅萌ゆる」が作られたのは、関大経済学部が創設された明治37(1904)年であった。「琵琶湖周航の歌」ができたのは大正6(1917)年であった。「哀調を帯びた大正メロディ」と言われるこの関大逍遙歌も、大正期に作られたのだろうか。ちなみに「自然の秀麗 人の親和」で始まる学歌は、千里山学舎が竣工した大正11(1922)年に、服部嘉香作詞、山田耕筰作曲で誕生した。

さて、本題のマガンの話にもどる。万葉の昔の奈良や京都にマガンが来ていることは当時の多くの和歌に詠まれていることから想像できる。ならば、明治、大正のマガ

ンの出てくる短歌を探そうと、ネットを検索していたら、「禮嚴法師歌集」(与謝野鉄幹の父の歌集、明治43、1910年刊)に、雁の歌がいくつか収められていることがわかった。そこには有馬や淡路の地名があることから、当時は、難波江と呼ばれた淀川の河口付近の葦の葉茂る入江あたりにもマガンが来ていたものと思われる。

マガンは9月末から10月に飛来し、2月下旬から3月に北へ帰る。関大逍遙歌の「雁高く鳴きて飛ぶ」の雁は、春の雑木林に咲く金蘭の花がすでに散っているのを見ても、3月の北帰行のマガンでなければならぬ。時は「千里が丘に月落ちぬ」「眺むる彼方白明に」から考えて夜明けである。夜明けとともに飛び立ち、雁行と呼ばれるくさび形の飛行隊形を描いて、遙か故郷のシベリアをめざすマガンの群れ。それは毎春、関大から全国に、そして世界に旅立っていく学生の姿でもある。

(経済学部教授)

HEADLINE

- 10月9日 初等教育学専修を開設
- 8月4日 創立120周年記念式典開催
- 2月7日 授業支援SAの協力を得て
- 2月6日 悠久の庭が完成
- 2月6日 学園祭フオートグラ

千里歌
 暑かった夏が過ぎ、心地よい涼しさを感じるこの季節になると、大学構内にははにかに熱気を帯びるようになる。大学の至る所で学生たちが熱心に大学祭の準備をしているのを見かける▼多くの学生たちにとって、大学祭は大学生活において最も思い出に残る行事のひとつである。大学祭のための準備は極めて大変であるが、それも学生たちからすればきつくない思い出になるに違いない▼学生たちにとつて、大学とは学問をはじめとして、多くのことを学ぶ場である。もちろん学ぶのは講義やゼミのときだけではない。学生たちが主体となつて自らの手で進める大学祭や部活動、サークル活動などのさまざまな学ぶ場である▼学生時代には、その時にしか出来ないことがたくさんある。学生のみならず、そのみに追いつくことは、「すぐに役に立つ」のではなく、大学祭や部活動、サークル活動などの、学生である今しか出来ないことに精一杯打ち込んでほしい。こうすることによって、大学はこれまで以上にすばらしい学びの場となるはずである。

(榊原雄一郎)

この冬、出かけよう!



●白馬梅池高原ロッジ
本学の白馬梅池高原ロッジは、梅池高原スキー場のゲレンデまで徒歩一分のところにある。ゼミやサークル等の合宿はもちろんだが、本学学生であれば友人同士でも利用することができる。利用料金もリーズナブルで食事は美味、ボリューム満点と利用者からは好評である。今年の冬はぜひとも白馬梅池高原ロッジへ足を運んでほしい。

●六甲山荘
大阪から一時間程度で行ける六甲山荘もお勧めだ。六甲山の自然に恵まれ、近くには人工スキー場や展望施設などもあり、また、眼下に見ることが出来る神戸の景色はすばらしい。ゼミやサークル等の合宿で大いに利用してほしい。

白馬梅池高原ロッジおよび六甲山荘の案内パンフレットは、学生生活課、高槻キャンパスオフィス、総務課(百周年記念会館内)に備えている。

【申込場所・時間】
千里山キャンパス:総務課(百周年記念会館内) ☎0663680297
高槻キャンパス:高槻キャンパスオフィス
※月・金曜日 九時~十六時まで
※白馬梅池高原ロッジの二月および三月の利用は、十二月一日(金)から受付開始。
(十二月および一月の利用は現在受付中)
(総務課)

セミナーハウスウェブサイト
<http://www.kansai-u.ac.jp/Jigyo/seminar/index.html>

関西四大学学長フォーラムを開催

関西大学、関西学院大、財団理事長、元文部科学大臣の学長が名古屋に集い、十一月十一日、名古屋商工会議所大ホール名古屋市東区において、「いま、本学に求められるもの、建学の精神とブランド力」というテーマのもと、関西四大学学長フォーラムを開催した。

当日は、新国立劇場運営



(写真提供:読売新聞社)

各大学の学長が、それぞれの大学の「建学の精神」を教育、研究にどのよう

第12回 F Dフォーラムを開催

全学共通教育推進機構で、十二月二十日(水)十三時三十分から、千里キャンパスBIGホール100と高槻キャンパスD106教室同時開催において、第十二回 F Dフォーラムを開催す

教職課程 フォーラムを開催

今回のフォーラムでは、みなさんの F D 授業評価アンケートの現状と展望」と題し、これまでの本学の F D 活動、特に「学生による授業評価アンケート」の実施内容・方法等への意見や今後の展開などについて、学生および教員それぞれの視点から生の率直な声を聞

関西四大学の学生が共同プレゼン演習 プロ野球オリックスファン増加策

関西四大学、関西学院大、関西学院大、同志社大学、立命館大学の社会学部立命館大学は産業界社会学部「広告論」ゼミ受講生が、十月二十一日十三時から十八時の間、第三学舎四三〇二教室で、ゼミ生約八十人による共同プレゼンテーション演習を行った。

今回のプレゼンテーション演習は、関同立の「広告論」担当教員(本学は水野由多加社会学部教授による)が「オリックスファン増加策」をテーマに、オリックス野球クラブ株式会社の協力により実現した。

課題は「オリックス・パファロースのファン増加」という内容で、オリックスの現状と競合するなかで、十代後および二十代前半特

就職状況

平成十八年度の就職状況、学生は学外での企業説明会等に流れ、一月末から三月初旬にかけて実施した学内企業セミナー(六百六十一社参加)への参加学生は、例年比で早期減少した。「採用活動の早期化がさらに加速している状況」を物語るものである。

平成十八年度の雇用環境は、昨年よりもさらに好転し、「ダブル期を上回る求人意欲」と表現されるほど

今年度の司法、公務員合格速報

司法試験に合格
新司法試験の本学合格者は十八人、旧司法試験の本学合格者は十一人である。司法試験の本学合格者は、六人である。旧司法試験の本学合格者は、十一人である。司法試験の本学合格者は、六人である。旧司法試験の本学合格者は、十一人である。

平成19年度開講講座

公務員講座は「国I対策講座」で特生割引制度を実施
公務員講座は「国I対策講座」で特生割引制度を実施
公務員講座は「国I対策講座」で特生割引制度を実施

就職説明懇談会を開催

十月一日、千里山キャンパスで、三年次生父母対象の就職説明懇談会を開催された。

懇談会には、個人面談も行われ、

企業が多いことがわかった

企業が多いことがわかった。複数の企業から内定を得る学生がいる一方で、何社応募してもなかなか良い結果が得られない学生が存在するという「二極化」がますます顕著になっている。

関大通信 第339号

平成18年(2006年)11月29日
大阪府吹田市山手町3-3-35
http://www.kansai-u.ac.jp/
次号は1月10日発行の予定です



2006 学園祭フォトグラフィティ



統一学園祭
11/9(木)
~11/12(日)
(写真提供<一部>:
関大スポーツ編集部)



今年もまた年内最後の関大通信を発行する時期となった。今年には関西大学にとって、創立百二十周年を迎えるという記念すべき年であった。百二十年の歴史からは、多くの困難を乗り越えてきた先輩たちの努力の跡が窺われる。

地球上ではこの百二十一年間に、技術革新の目覚ましい発展が見られた。それが人類に与えたものが幸福だけではなかったことは歴史の教えるところである。昨今のIT産業の進展には、目を見張るものがある。しかしながら、その一方で、IT弱者と言われる人びとの存在も忘れてはならない。これからの百二十年間は、そのような社会的格差を見直して、より良い時代へと向かっていってほしいと切に願う。

(伏見 英俊)

▶ 編集後記 ◀

森岡 孝二(もりおか こうじ) 教授
専門は企業社会論。昨年は「働かざる者の時代」を著し、来年一月にはD・K・シプラー「ワーキング・プア」を翻訳出版の予定。NPO株主オンスマンの理事長として会社ウォッチにあたりながら、バード・ウォッチングを愉しむ。



今月の表紙